

【徳島市】

校務 DX 計画

本市では、令和3年4月より徳島県教育委員会が設置・運営している「学校業務支援システム」を県内市町村の公立小中学校と共同活用している。本システムは、県・市教育委員会と学校間との多様な事務連絡が一本化される「グループウェア」機能と、指導要録等の公簿の電子化等を可能にした「統合型校務支援システム」から構成され、校務の効率化と教員の働き方改革の一助となっている。また、本市の小中学校においては、校務系と学習系とがネットワーク分離された環境の下、個人情報を含むデータは、特定の環境でのみ利用可能となっており、情報のセキュリティを担保している。

しかし、現在の学校業務支援システムはクラウド型ではないため、校内の職員端末からのみ利用でき、さらに教職員が、校務系と学習系の複数端末を使用するため、校務処理と授業準備に業務負担が生じている。また校務用データを校内サーバで運用しているため、大規模災害時等における業務継続の確保が困難な状態となっている。

こうした課題の改善に向け、現在の学校業務支援システムは、今後、徳島県においてクラウド型への移行が予定されている。本市においても、次期システムへのスムーズな移行により、教職員のロケーションフリーによる柔軟な働き方を推進し、校務の効率化と負担軽減を図っていく。また、校務系・学習系に分離している校内ネットワークを統合し、データ連携した児童生徒データをダッシュボード機能により可視化し、校務用データの安全な利用と利便性の向上を目指す。併せて、生成 AI の活用により、校務の効率化を図る。今後は、さらなるデータの取り扱いに関する教職員の意識改革が必須となるため、リスクマネジメントの徹底を図っていく。

以上のように、次世代の学校業務支援システムへの移行及び、校務系・学習系ネットワークの統合とともに、学校におけるクラウド活用を前提としたデジタル学習基盤を整備し、生成 AI の活用により、校務の効率化と教員の働き方改革並びに、教育活動の一層の高度化を目指す。